

2018年3月期
第3四半期決算及び通期業績見通し
説明資料

帝人株式会社
2018年2月5日

第 3 四半期決算概況

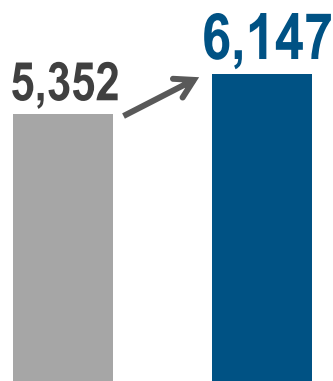
決算ハイライト

アラミド繊維、樹脂を中心に販売は総じて堅調に推移
医薬品の導出対価計上や米国在宅医療撤退も寄与し
前年同期対比で営業利益増益

— 2017年度 9か月累計 前年同期比 —

売上高

+14.9%

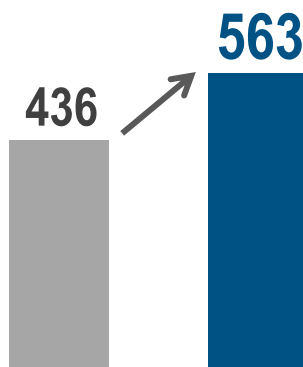


16年度3Q累計 17年度3Q累計

- 各事業の販売は総じて堅調に推移
- 複合成形材料分野のCSP社* 連結子会社化で増収

営業利益

+29.1%



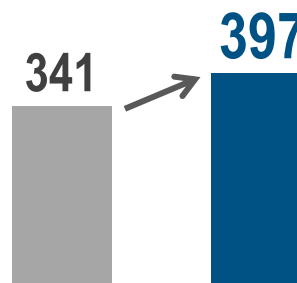
16年度3Q累計 17年度3Q累計

- アラミド繊維、樹脂の販売が好調
- 医薬品分野における新規アルツハイマー病治療薬候補化合物の導出対価受け取り
- 米国在宅医療からの撤退が寄与

親会社株主に帰属する
四半期純利益

+16.6%

(単位：億円)



16年度3Q累計 17年度3Q累計

- 営業利益 増益
- 固定資産売却益を計上

* コンチネンタル・ストラクチャル・プラスチック社（以下CSP社）：2017年1月に連結子会社化

◆ 経営成績

(億円)

	16年度 3Q累計	17年度 3Q累計	差異
売上高	5,352	6,147	+795
営業利益	436	563	+127
営業外損益	22	5	-16
経常利益	458	568	+110
特別損益	-44	34	+77
税金等調整前 四半期純利益	414	602	+188
親会社株主に帰属する 四半期純利益	341	397	+57

ROE *1	14.2%	14.4%	+0.2%
営業利益ROIC *2	11.1%	11.8%	+0.7%
EBITDA *3	716	904	+188

	16年度 3Q累計	17年度 3Q累計	差異
設備投資 *4	286	286	+1
減価償却費	280	341	+61
研究開発費	270	257	-13

*1 「親会社株主に帰属する四半期純利益÷自己資本」にて算出

2 「営業利益÷投下資本」にて算出

* 純資産+有利子負債-現金および預金

注) *1, *2は年換算後の数値

*3 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

*4 設備投資には無形固定資産を含む

◇ P L 換算レート

	16年度 3Q累計	17年度 3Q累計	差異
円/米ドル	107	112	+5
円/ユーロ	118	129	+11
米ドル/ユーロ	1.11	1.15	+0.04

◆ 営業外損益

	16年度 3Q累計	17年度 3Q累計	差異
受取利息	5	8	+3
受取配当金	18	19	+1
持分法による投資利益	24	9	-15
デリバティブ評価益	6	9	+3
雑収入	5	12	+7
営業外収益 計	56	56	-0
支払利息	16	20	+4
為替差損	3	15	+12
雑損失	16	16	+1
営業外費用 計	35	51	+16
営業外損益 計	22	5	-16

◆ 特別損益

(億円)

	16年度 3Q累計	17年度 3Q累計	差異
固定資産売却益	2	55	+53
投資有価証券売却益	0	4	+4
その他	4	4	-1
特別利益 計	7	63	+56
固定資産除売却損	16	15	-0
減損損失	7	4	-4
事業構造改善費用	20	5	-15
その他	7	5	-2
特別損失 計	50	30	-21
特別損益 計	-44	34	+77

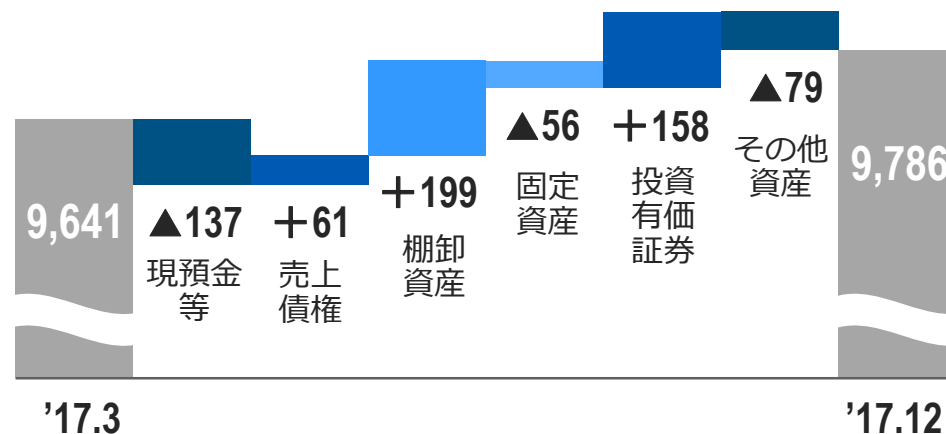
◆ 財政状態

(億円)	17年 3月末	17年 12月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	9,641	9,786	+145	+178
自己資本	3,384	3,964	+580	+190
有利子負債	3,762	3,475	-287	+30
D/Eレシオ	1.11	0.88	-0.24	
自己資本比率	35.1%	40.5%	+5.4%	

◆ キャッシュ・フロー*の状況

(億円)	16年度 3Q累計	17年度 3Q累計	差異
営業活動	530	560	+30
投資活動	-171	-348	-176
フリー・キャッシュ・フロー	358	212	-146
財務活動ほか	325	-360	-685
現金及び 現金同等物増減	683	-148	-831

◇ 総資産 増減内訳 (億円)



◇ BS換算レート

	17年 3月末	17年 12月末	差異
円/米ドル	112	113	+1
円/ユーロ	120	135	+15
米ドル/ユーロ	1.07	1.19	+0.13

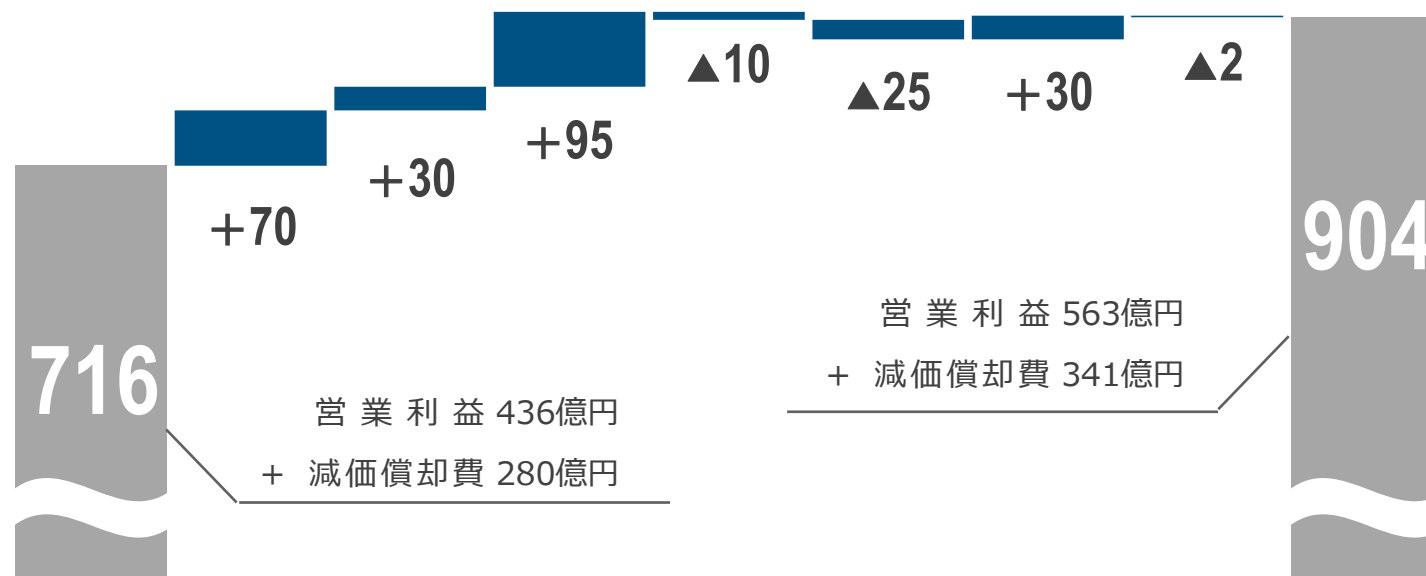
*キャッシュ・フローについては金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外です

◆ EBITDA*増減分析

前年同期対比
増益

- (+) 構造改革：米国在宅医療からの撤退影響等
- (+) 新規アルツハイマー病治療薬候補化合物の導出対価
- (+) 販売量差：アラミド繊維の自動車向け増、医薬品分野の「フェブリク」増等

(億円)



2016年度 3Q累計	構造改革・コストダウン	治療薬候補化合物導出	販売量差	売値・構成差	原燃料単価差	為替影響	先行費用ほか	2017年度 3Q累計
-------------	-------------	------------	------	--------	--------	------	--------	-------------

*「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

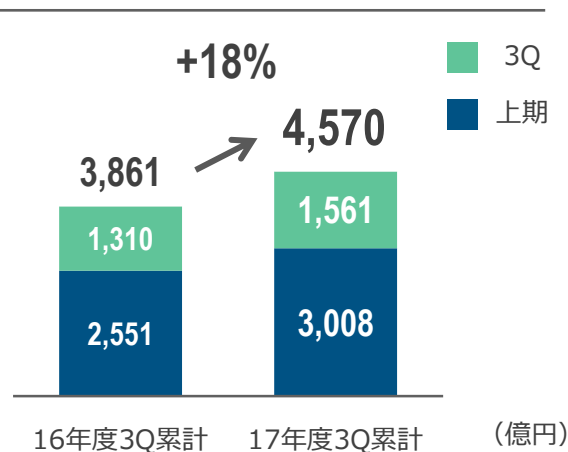
◆ セグメント別 売上高・営業利益比較（前年同期対比）

		16年度 3Q累計	17年度 3Q累計	差異	増減率
		(億円)			
売上高	マテリアル事業	1,685	1,866	+181	+11%
	繊維・製品事業	2,117	2,156	+38	+2%
	複合成形材料事業ほか	59	548	+489	+833%
	マテリアル 計	3,861	4,570	+709	+18%
	ヘルスケア	1,141	1,188	+47	+4%
	その他	349	389	+39	+11%
	合計	5,352	6,147	+795	+15%
営業利益	マテリアル	244	242	-2	-1%
	ヘルスケア	192	321	+129	+67%
	その他	33	42	+8	+25%
	消去又は全社	-33	-42	-9	—
	合計	436	563	+127	+29%

マテリアル

アラミド繊維が自動車向け等で好調
CSP社の連結子会社化により増収

売上高



マテリアル事業

3Q累計売上高1,866億円(前年同期比+181億円)

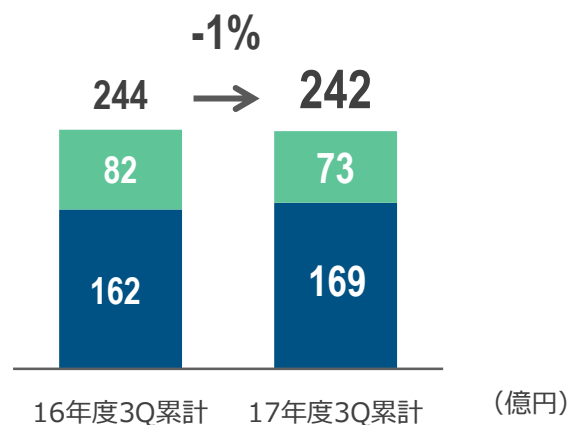
- アラミド繊維の自動車・インフラ関連向け販売増
- 炭素繊維の航空機用途向けの販売順調
- PC樹脂の需要堅調・販売構成の改善
- アラミド繊維の定修影響（前年同期は大規模定修有り）

繊維・製品事業

3Q累計売上高2,156億円(前年同期比+38億円)

- 欧米向けスポーツ・アウトドア用途が好調維持
- 日本・アジア向け自動車関連部材が堅調
- 復興需要が一巡し、土木資材用途の販売が減少

営業利益



複合成形材料事業ほか

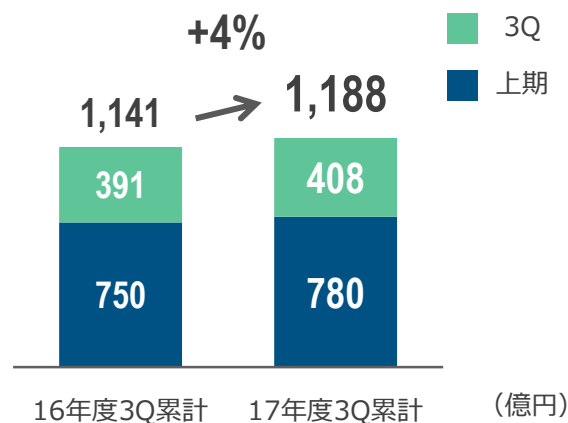
3Q累計売上高 548億円(前年同期比+489億円)

- CSP社の連結子会社化で増収
- 電池部材でリチウムイオンバッテリー用セパレータの新規顧客拡大遅れ

ヘルスケア

主力製品・サービスの販売が順調に拡大し増収
米国在宅医療事業の撤退影響もあり増益

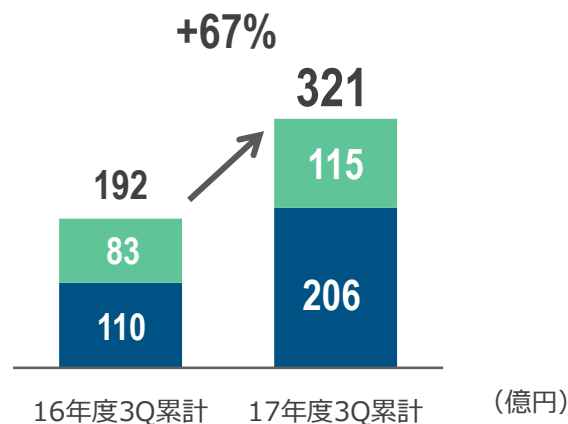
売上高



医薬品分野

- 高尿酸血症・痛風治療剤「フェブリク」の販売が拡大
- 新規アルツハイマー病治療薬候補化合物の米メルク社への導出に伴う対価を受け取り増益（昨年5月）
- 独メルツ社からA型ボツリヌス毒素製剤「Xeomin」の日本における共同開発・独占販売権を取得（昨年10月）

営業利益



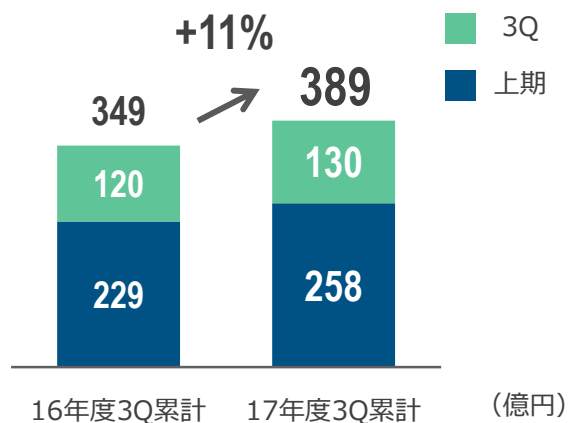
在宅医療分野

- H O T用酸素濃縮装置は高水準のレンタル台数を維持
睡眠時無呼吸症候群治療器(C P A P)はレンタル台数が伸長
- 米国事業からの撤退影響で減収・増益
- 地域包括ケア向け商品である多職種連携情報共有システム「バイタルリンク」の契約数が増加

その他

IT事業を中心に堅調

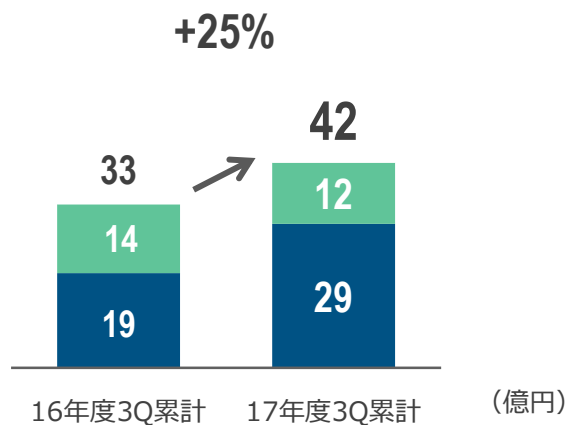
売上高



IT事業

- 電子コミック配信サービスの売上が順調に拡大
- 病院・製薬企業向けのラインナップ拡充
- 地域包括ケア領域でA I、I o T関連の先行投資を強化
- R P A 関連ビジネスの提供開始
(ロボティック・プロセス・オートメーション)

営業利益



2018年3月期 通期業績見通し

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出
 *2 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

*3 前回見通しは2017年11月7日公表

◆ 業績指標推移

ROE*1

EBITDA*2

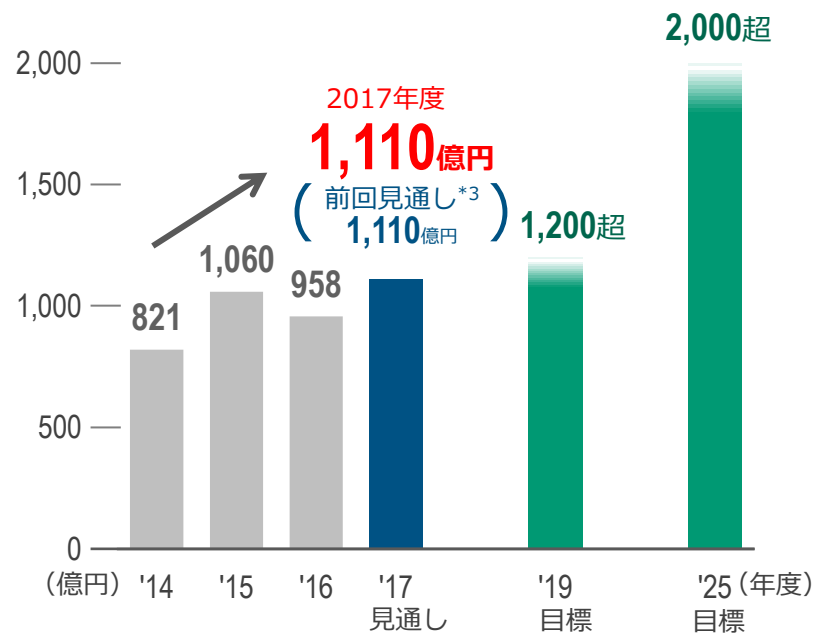
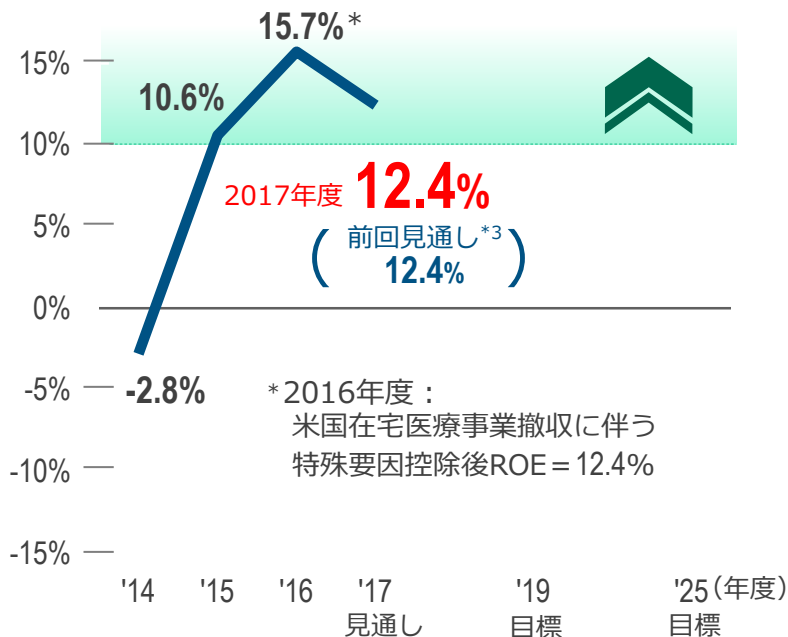
中期
目標

10%以上

2019年度 **1,200億円超**

2025年度 **2,000億円超**

推移



中期目標達成に向け 順調に業績拡大を継続

◆ 通期業績見通しの概況

(億円)	16年度 実績	17年度 見通し	差異	増減率	17年度 前回見通し*2	前回見通し との差異
売上高	7,413	8,400	+987	+13%	8,500	-100
営業利益	565	680	+115	+20%	680	—
経常利益	559	680	+121	+22%	680	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	501	450	-51	-10%	450	—
営業利益ROIC *1	10.0%	10.7%	+0.7%	—	10.7%	—
フリー・キャッシュ・フロー	-486	150	+636	—	100	+50
設備投資額	462	550	+88	+19%	600	-50
減価償却費	393	430	+37	+9%	430	—
研究開発費	354	380	+26	+7%	390	-10

2017年度4Q (18年1月-3月) 見通し 前提条件

為替レート 米ドル=110円、ユーロ=130円
原油価格(Dubai) 60米ドル/バレル

2017年度 配当金

中間 30円/株 期末 30円/株 年間 60円/株
(確定) (見通し*) (見通し*)

(*前回見通しから変更なし)

1 「営業利益÷投下資本」にて算出

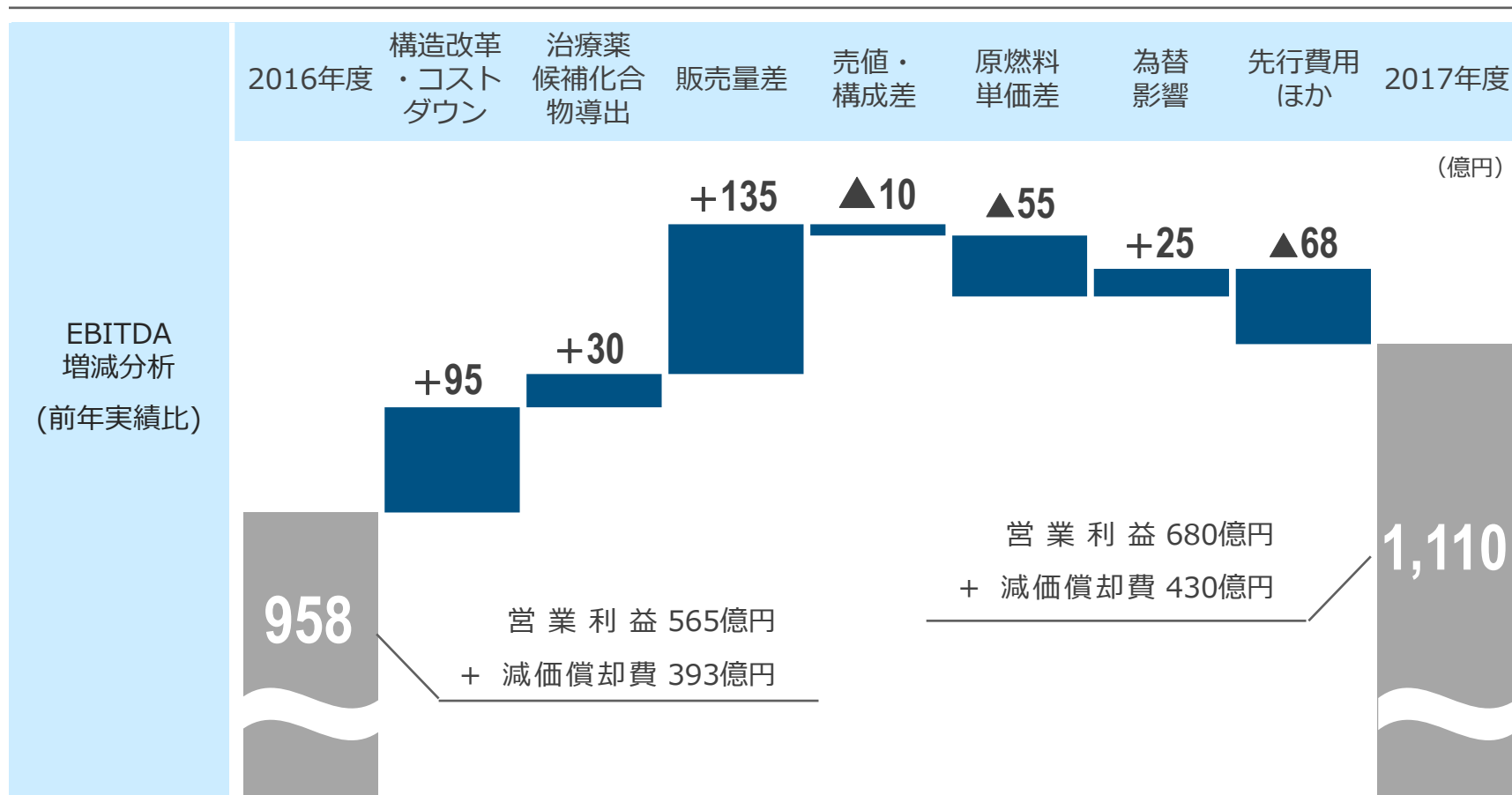
*投下資本=純資産+有利子負債-現金および預金

*2 前回見通しは2017年11月7日公表

◆ EBITDA*増減内訳 (前年実績対比)

前年実績対比
増益見通し

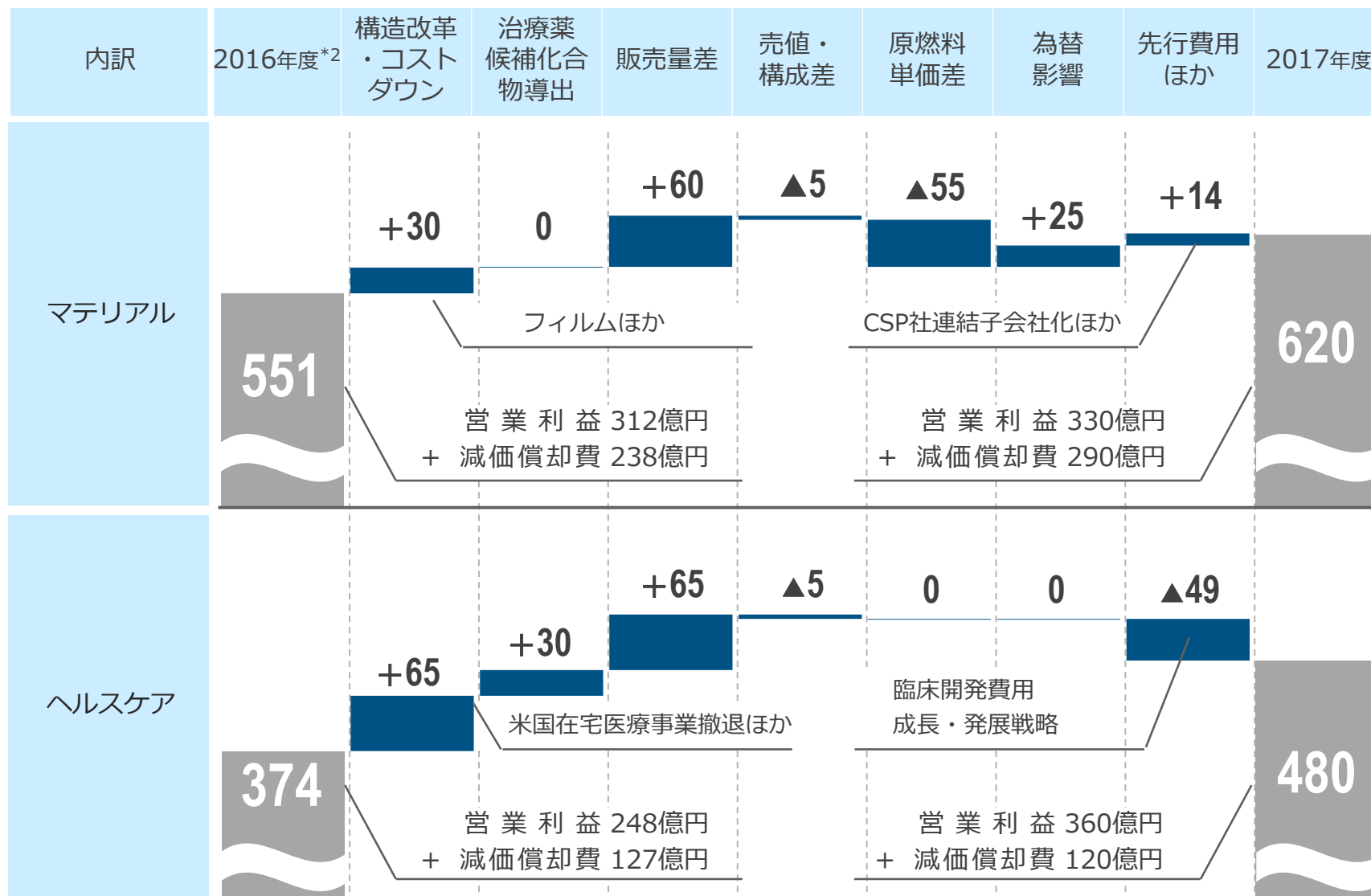
(+) 米国在宅医療からの撤退等の構造改革効果、アラミド繊維他の販売増
(-) 原燃料単価の上昇、ヘルスケア研究開発費等の先行費用増



* 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

◆ セグメント別 EBITDA*¹増減内訳 (前年実績対比)

(億円)



*1 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

*2 2016年度実績の各数値は、2017年5月9日公表後にセグメント間の調整を加えた結果、見直しを実施しております。

◆ セグメント別 経営指標

		16年度*1	17年度	差異	17年度	差異
		実績	今回見通し	前年実績対比	前回見通し*2	今回－前回
EBITDA*3 (億円)						
	マテリアル	551	620	+69	640	-20
	ヘルスケア	374	480	+106	460	+20
	その他	67	75	+8	75	—
	全社・消去	-34	-65	-31	-65	—
	合計	958	1,110	+152	1,110	—
営業利益ROIC*4 (%)						
	マテリアル	10%	8%	-2%	9%	-1%
	ヘルスケア	22%	29%	+7%	27%	+2%
	合計	10%	11%	+1%	11%	—

*1 16年度実績の各数値は、2017年5月9日公表後にセグメント間の調整を加えた結果、見直しを実施しております。

*2 前回見通しは2017年11月7日公表

*3 「営業利益＋減価償却費（のれんを含む）」にて算出

4 「営業利益÷投下資本」にて算出 *投下資本 = 純資産＋有利子負債－現金および預金

◆ セグメント別 売上高・営業利益推移 (前年実績対比)

		16年度実績*			17年度 今回見通し			差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	年間
		(億円)						
売上高	マテリアル事業	1,114	1,166	2,281	1,234	1,266	2,500	+219
	繊維・製品事業	1,395	1,478	2,873	1,401	1,599	3,000	+127
	複合成形材料事業ほか	42	203	245	374	376	750	+505
	マテリアル 計	2,551	2,848	5,398	3,008	3,242	6,250	+852
	ヘルスケア	750	756	1,507	780	770	1,550	+43
	その他	229	278	508	258	342	600	+92
	合計	3,530	3,882	7,413	4,047	4,353	8,400	+987
営業利益	マテリアル	162	150	312	169	161	330	+18
	ヘルスケア	110	138	248	206	154	360	+112
	その他	19	34	53	29	26	55	+2
	消去又は全社	-21	-27	-48	-29	-36	-65	-17
	合計	270	295	565	375	305	680	+115

* 2016年度実績の各数値は2017年5月9日公表後にセグメント間の調整を加えた結果、見直しを実施しております。

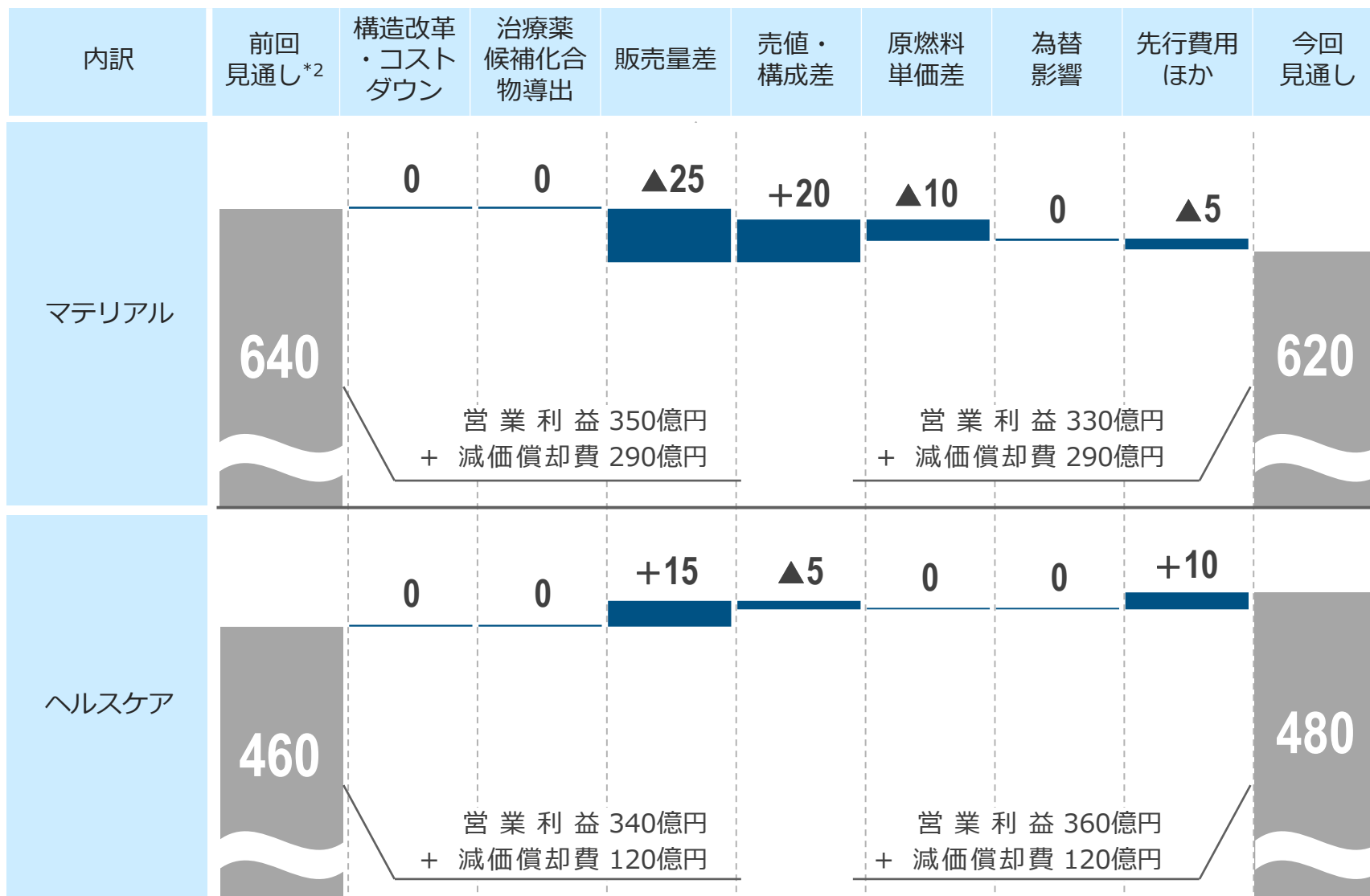
◆ セグメント別 売上高・営業利益推移 (前回見通し対比)

		17年度 前回見通し*			17年度 今回見通し			差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	年間
		(億円)						
売上高	マテリアル事業	1,234	1,216	2,450	1,234	1,266	2,500	+50
	繊維・製品事業	1,401	1,699	3,100	1,401	1,599	3,000	-100
	複合成形材料事業ほか	374	426	800	374	376	750	-50
	マテリアル 計	3,008	3,342	6,350	3,008	3,242	6,250	-100
	ヘルスケア	780	770	1,550	780	770	1,550	—
	その他	258	342	600	258	342	600	—
合計		4,047	4,453	8,500	4,047	4,353	8,400	-100
営業利益	マテリアル	169	181	350	169	161	330	-20
	ヘルスケア	206	134	340	206	154	360	+20
	その他	29	26	55	29	26	55	—
	消去又は全社	-29	-36	-65	-29	-36	-65	—
	合計	375	305	680	375	305	680	—

* 前回見通しは2017年11月7日公表

◆ セグメント別 EBITDA*1増減内訳 (前回見直し対比)

(億円)



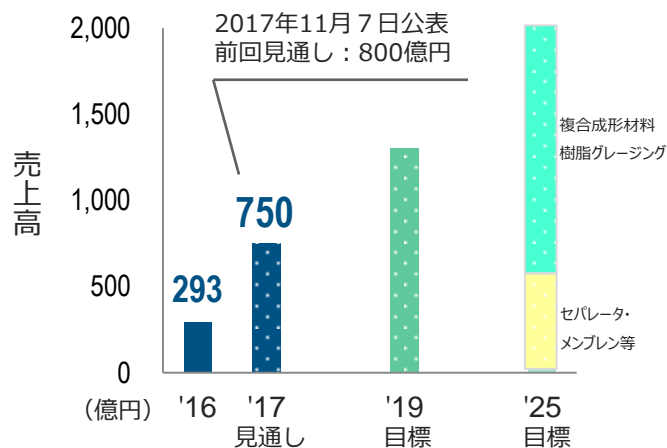
*1 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

*2 前回見直しは2017年11月7日公表

発展戦略の進捗と見通し

17年度でマテリアルの拡大に若干の遅れあるも
全体としてほぼ計画通りに進捗

マテリアル 発展戦略



複合成形材料

- ・北米地域の自動車用途で
CSP社製ガラス繊維複合材料の販売が堅調
- ・炭素繊維複合材料にアルミや樹脂を組み合わせた
大型一体型のマルチマテリアル部品を製造し
大手自動車メーカーの量産燃料電池バスの
ルーフカバーに採用

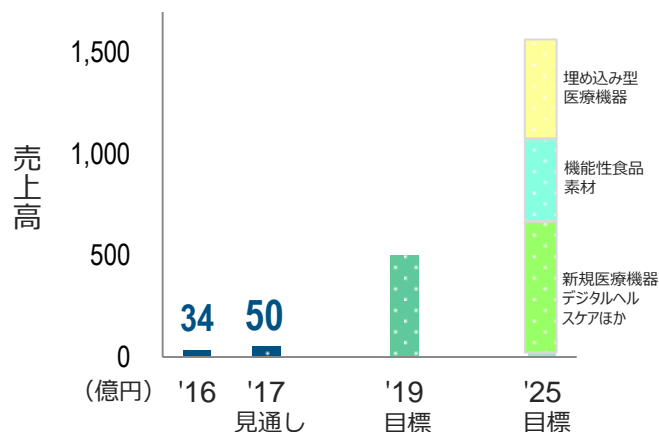
樹脂グレージング

- ・**新規コーティング技術**の事業展開推進
- ・市販車にフロントウィンドウが搭載

リチウムイオンバッテリー用 セパレータ

- ・民生用途：アジア顧客への販路拡大に遅れ
- ・車載用途：新規参入に向けて顧客と共同で**評価作業を推進中**

ヘルスケア 発展戦略



埋め込み型 医療機器

- ・昨年7月に**帝人メディカルテクノロジー(株)**を設立
- ・同10月に**センチュリーメディカル(株)**の脊椎事業の
買収を決定し、1月に買収手続きが完了
- ・2020年売上高100億円達成に向け事業拡大加速

機能性食品素材

- ・**大手食品メーカー**との連携、採用拡大
- ・新規スーパー穀物の探索推進

新規医療機器 デジタルヘルスケア ほか

- ・昨年10月にうつ治療装置「**NeuroStar**」の国内
独占販売権を取得
- ・**RFID棚管理システム「レコピック」**の病院展開
拡大

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

1. 競合・市況変動にかかるもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動が事業業績に影響を及ぼす可能性があります。

2. 製品の品質にかかるもの

事業活動全般において品質保証を確保する体制を敷いていますが、製品・サービスの欠陥が業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

3. 研究開発にかかるもの

研究開発に対し積極的に経営資源を投入していますが、特に医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

4. 海外活動にかかるもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

5. 事故・災害にかかるもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

◆ 主要経営指標推移

	13年度 実績	14年度 実績	15年度 実績	16年度 実績	17年度 見通し
ROE* ¹	3.0%	-2.8%	10.6%	15.7%	12.4%
営業利益ROIC * ²	3.4%	7.1%	12.7%	10.0%	10.7%
EBITDA (億円) * ³	637	821	1,060	958	1,110
1株当たり当期純利益 (円) * ⁴	42.5	-41.1	158.1	254.9	228.7
1株当たり配当金 (円) * ⁴	20	20	35	55	60
総資産 (億円)	7,684	8,237	8,234	9,641	9,800
有利子負債 (億円)	2,815	3,082	3,033	3,762	3,500
D/Eレシオ * ⁵	1.00	1.07	1.01	1.11	0.9
自己資本比率	36.7%	34.9%	36.4%	35.1%	39.8%

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

2 「営業利益÷投下資本」にて算出

*純資産+有利子負債-現金および預金

*3 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

*4 株式併合による株数の変化を反映したベースで記載

*5 「有利子負債÷自己資本」にて算出

◆ 連結貸借対照表

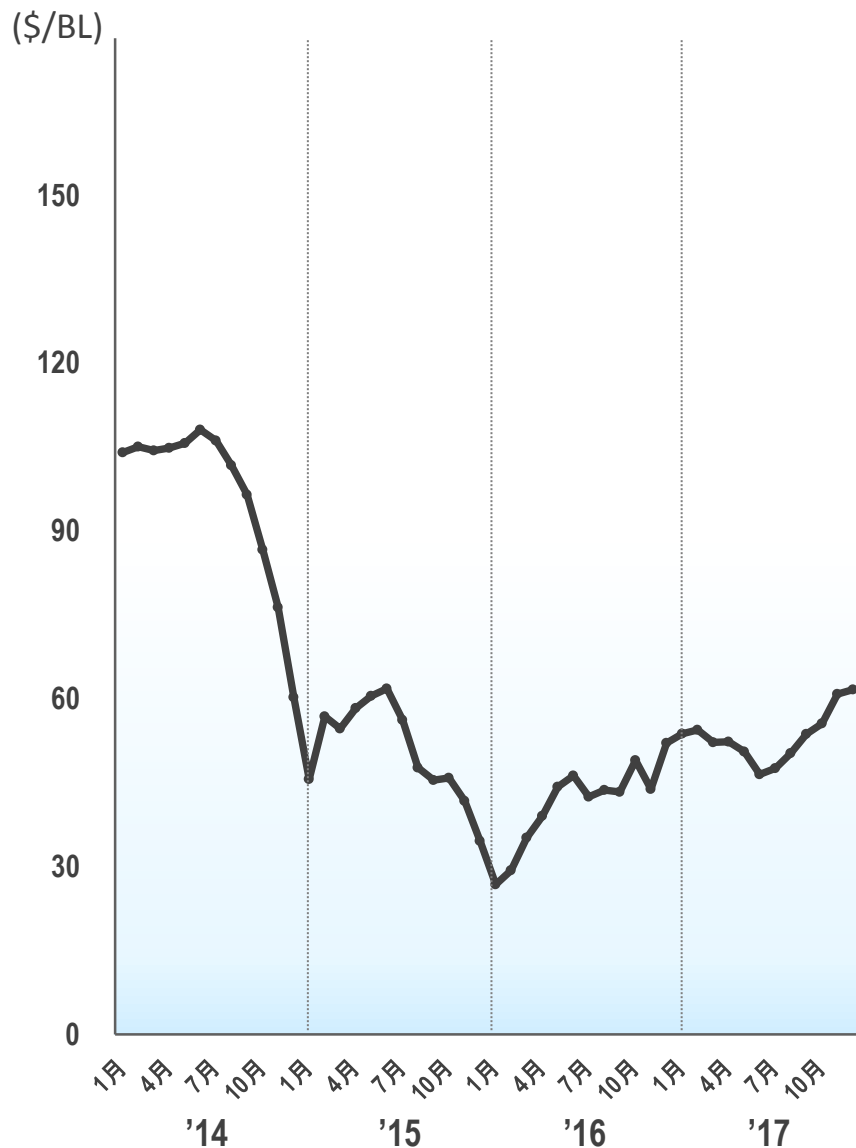
(億円)	16年				17年			
	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
資産								
流動資産	4,305	4,137	4,036	5,096	4,668	4,736	4,595	4,755
固定資産	3,929	3,761	3,762	3,962	4,973	4,987	4,943	5,031
合計	8,234	7,898	7,797	9,058	9,641	9,723	9,538	9,786
負債・純資産								
負債	5,090	4,855	4,632	5,515	6,122	5,966	5,560	5,673
(内 有利子負債)	3,033	2,978	2,762	3,437	3,762	3,862	3,411	3,475
純資産	3,144	3,043	3,165	3,543	3,518	3,757	3,978	4,113
合計	8,234	7,898	7,797	9,058	9,641	9,723	9,538	9,786

◆ 連結損益計算書

(億円)	16年度				17年度			差異
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	17/3Q-16/3Q
売上高	1,742	1,788	1,821	2,061	1,982	2,064	2,100	+279
売上原価	1,131	1,182	1,196	1,420	1,313	1,398	1,428	+232
売上総利益	612	606	625	641	669	666	672	+47
販管費	455	493	459	512	478	483	485	+25
営業利益	157	113	166	129	191	184	188	+21
営業外損益	-13	10	25	-27	9	-5	1	-24
(内 金融収支)	7	-3	2	-3	7	-4	3	+1
(内 持分法投資損益)	8	17	-2	-3	3	5	1	+3
経常利益	144	123	191	102	200	179	189	-2
特別損益	-6	-22	-15	-176	-5	51	-13	+2
税金等調整前 四半期純利益	138	100	176	-75	196	230	176	-0
法人税等	22	-2	46	-241	60	64	68	+21
非支配株主に帰属する 四半期純利益	1	3	3	6	2	8	3	-0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	114	99	127	161	134	158	105	-22

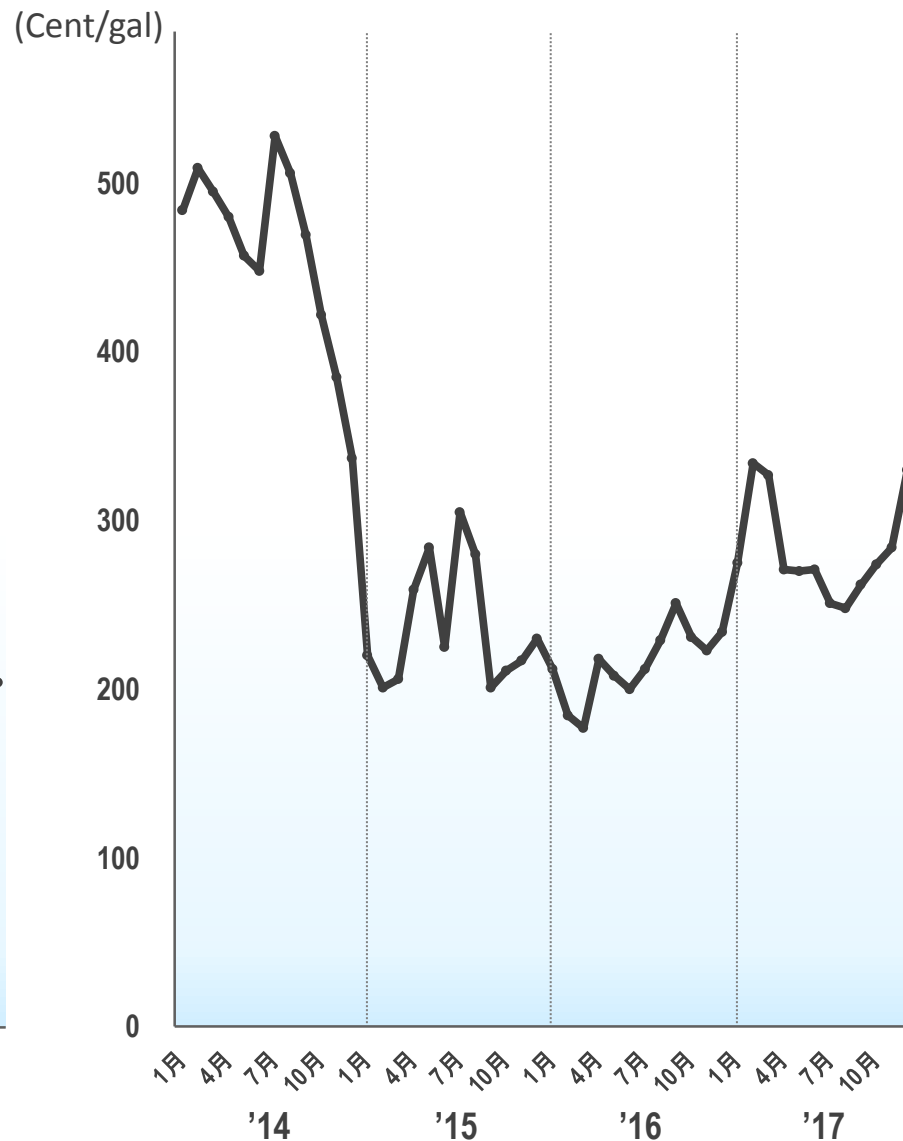
* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ ドバイ原油価格推移



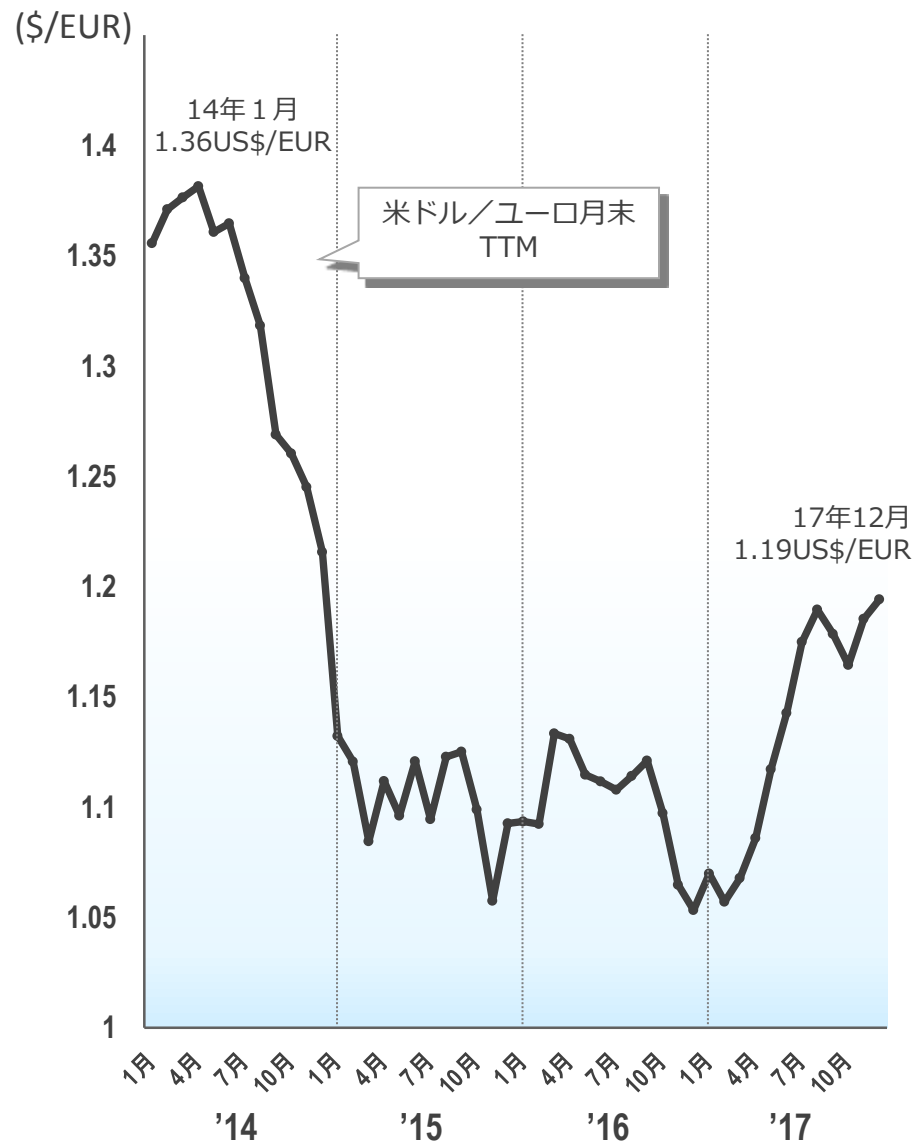
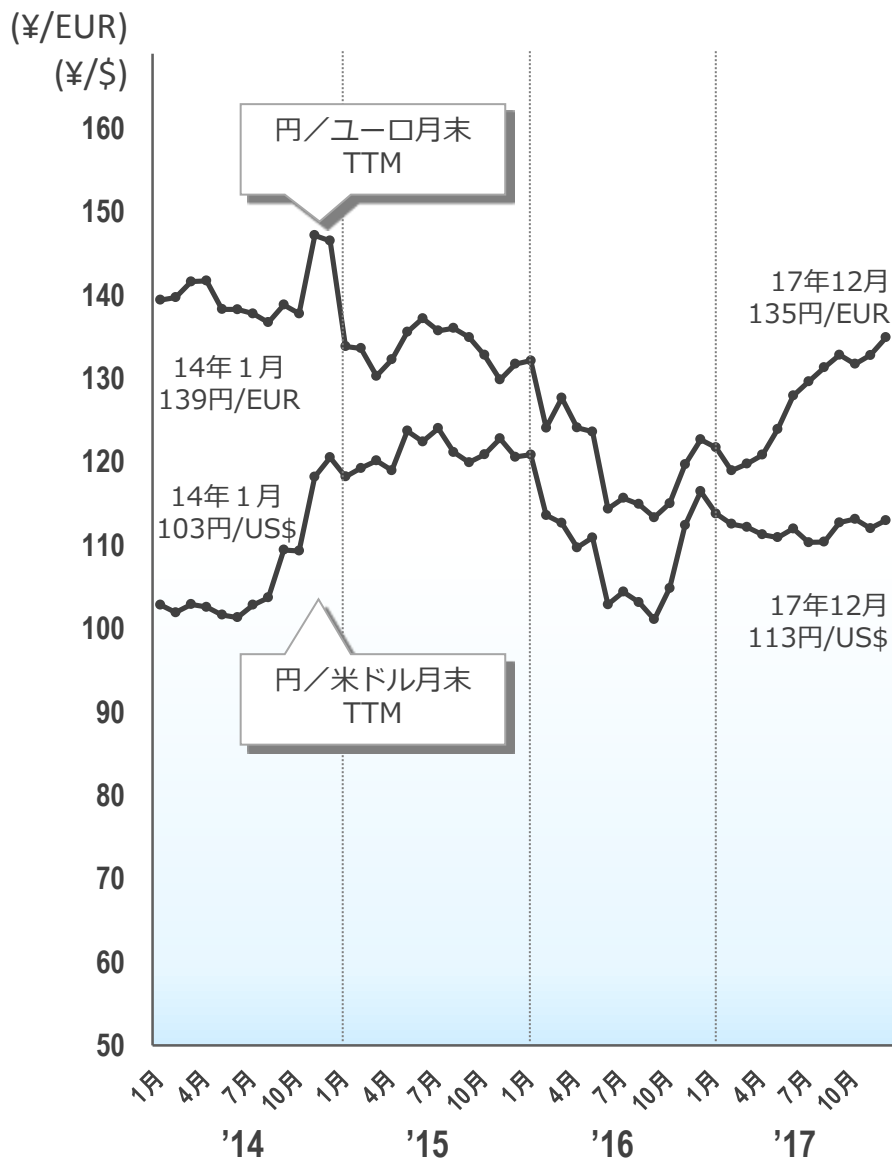
【出所：Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ ベンゼン価格推移



【出所：BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

◆ 円/米ドル、円/ユーロ為替レート推移



◆ 主要医薬品 売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	16年度					17年度		
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	31	28	31	25	116	28	28	30
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	10	9	10	8	37	9	9	9
骨粗鬆症治療剤 計		41	38	41	33	153	37	36	39
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	64	64	75	63	265	74	75	88
ベニロン®	重症感染症治療剤	10	12	14	11	47	13	13	14
ムコソルバン®	去痰剤	14	13	17	13	58	13	12	15
ソマチュリン®*2	先端巨大症及び下垂体性巨人症、膵・消化管神経内分泌腫瘍治療剤	4	4	5	4	17	4	6	8
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	2	2	3	3	10	5	5	5
ラキシベロン®	緩下剤	5	5	5	4	20	4	5	5
トライコア®	高脂血症治療剤	4	4	4	4	15	4	4	4
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	3	3	12	3	3	3

*1 ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp. (米)の登録商標です。

*2 ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏) の登録商標です。

◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2017年12月末現在)

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認／ 新規上市
骨・関節 領域		KTP-001	ITM-058 NT 201*1		
呼吸器 領域		PTR-36			
代謝・循環器 領域		TMG-123 TMX-049 TMX-049DN*2	ITM-014T*3 STM-279 VRS-317*4	TMX-67	ITM-014N*5
その他			GGs-ON, GGs-MPA, GGs-CIDP		

* 承認／新規上市は直近1年間を記載

*1 2017年10月独メルツ社から導入したNT 201の第Ⅲ相臨床試験は独メルツ社で実施中

*2 2017年12月糖尿病性腎症を適応症として開発中のTMX-049DNは米国で第Ⅱ相試験に着手

*3 2017年10月ソマチュリン®の甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍への適応拡大に向けた臨床開発（第Ⅲ相臨床試験）に着手

*4 VRS-317は、2018年1月9日、米ヴェルサーティス社との開発・販売契約の解除決定を発表済

*5 ソマチュリン®の適応拡大プロジェクトとして開発中のITM-014Nは、2017年7月「膵・消化管神経内分泌腫瘍」に対する適応追加の承認を取得

◆ 新規開発医薬品 (2017年12月末現在)

【承認/新規上市】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-014N (ランレオチド酢酸塩)	膵・消化管神経 内分泌腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導 (直接的作用) や細胞栄養因子の分泌制御 (間接的作用) を介した作用により、神経内分泌腫瘍の進展抑制や諸症状の改善が期待される。	注射	導入： 仏イプセン社 (効能・効果追加) 2017年7月承認取得

【承認申請】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-67 (フェブキソスタット)	高尿酸血症・ 痛風	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかった患者へも使用が可能である。	錠剤	共同開発： アステラス製薬 (中国) 有限公司 2015年11月承認申請

◆ 新規開発医薬品 (2017年12月末現在)

【Phase III】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と安全性（高カルシウム血症のリスク低減）が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社
NT 201	A1型ボツリヌス毒素活性本体/ 上肢・下肢痙縮	A1型ボツリヌス毒素活性本体による筋弛緩作用により、上肢・下肢痙縮における骨格筋の緊張の緩和・改善が期待される。	注射	導入： 独メルツ社
ITM-014T (ランレオチド酢酸塩)	甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導（直接的作用）や細胞栄養因子の分泌制御（間接的作用）を介した作用により、甲状腺機能の正常化が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社 (効能・効果追加)
STM-279	ADA (アデノシン・デアミナーゼ) 欠損症	本剤（ポリエチレングリコール修飾遺伝子組換えウシADA類縁体）は、ADA欠損症患者にADAを補充することで、リンパ球の減少を抑える注射剤であり、重症複合免疫不全症（SCID）の発症を回避することが期待される。	注射	導入： 英シグマタウ社

◆ 新規開発医薬品 (2017年12月末現在)

【Phase III】(続き)

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGG-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)
GGG-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発 血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)
GGG-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄 性多発根神経炎	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)

◆ 新規開発医薬品 (2017年12月末現在)

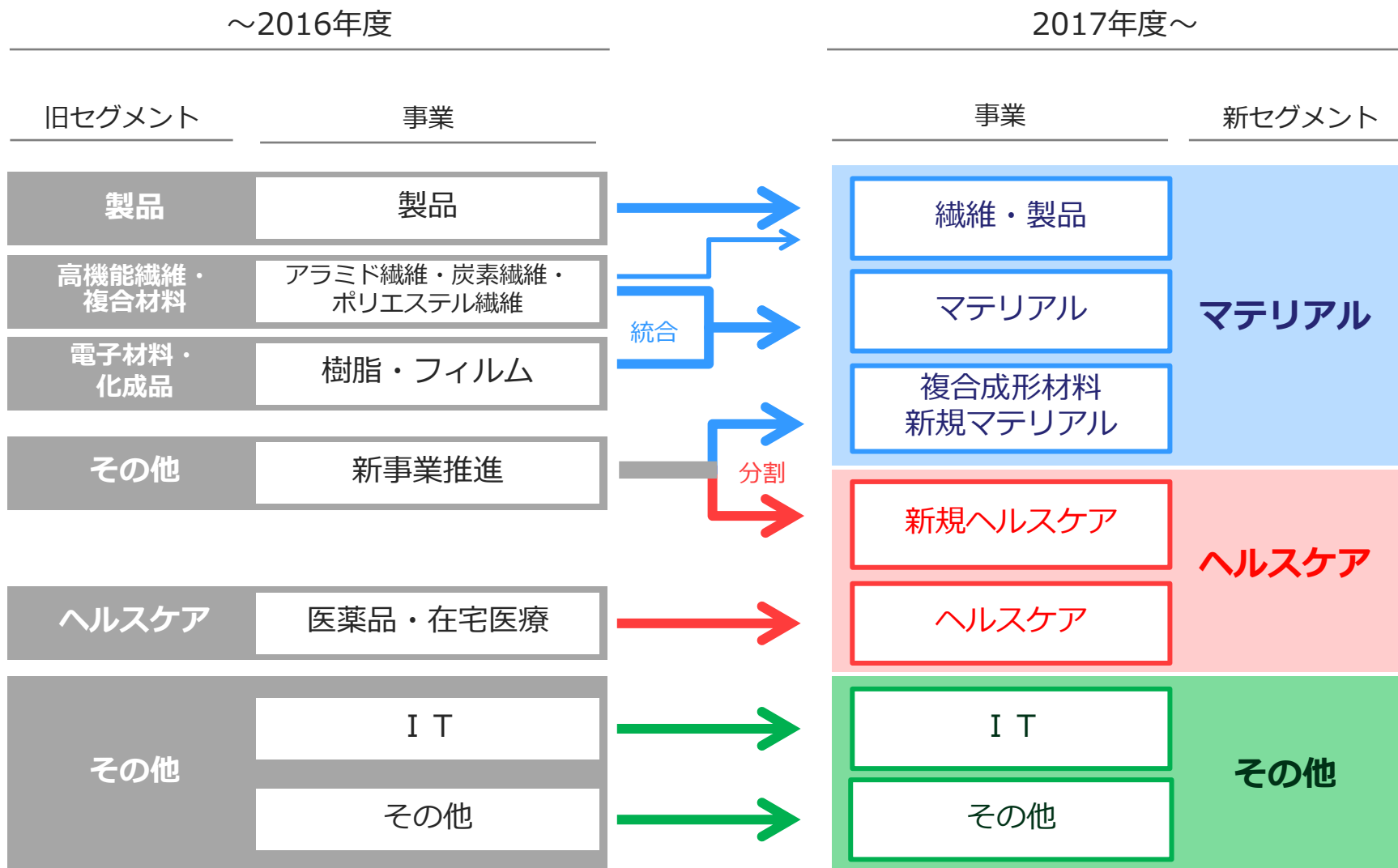
【Phase II】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素（マトリックスメタロプロテアーゼ）と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。	注射	発明者： 波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発：化血研
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序（CRTh2拮抗作用）によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果（軽症患者）や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果（軽症～重症の患者）が期待される。	錠剤	導入： 英プルマジェン・セラピューティクス（アズマ）リミテッド社
TMG-123	2型糖尿病	新規作用機序（肝優位型GK活性化作用）による血糖コントロール薬。 血糖コントロールが不十分な患者で有効性が期待されるほか、高い利便性（1日1回投与、腎機能低下患者で用量調節の必要性低い、薬物相互作用の懸念が少ない等）が期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-049	高尿酸血症・痛風	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規高尿酸血症治療薬として、有効性と安全性に優れることが期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-049DN	2型糖尿病における糖尿病性腎症	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規糖尿病性腎症治療薬として、腎症の進展抑制が期待される。	錠剤	自社開発品

◆ 導入品目の状況 (直近3年間を記載)

導入契約	導入元	内 容
2015年3月	大正製薬(株)	変形性関節症の鎮痛・消炎を適応症とした、エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤TT-063の国内における販売権許諾契約を締結 (2015年9月 : 大正製薬(株)が製造販売承認を取得) (2016年1月 : 「ロコア」として大正富山医薬品(株)と共同販売を開始)

◆ 組織再編 (開示セグメントの変更)



TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

Human Chemistry, Human Solutions

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。